

TAKASHIMAYA *art information* 高島屋大阪店6階美術画廊のご案内 2025 7・8月

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

7月2日(水)～7日(月)

十代 饗庭 長兵衛 展

元禄2年、初代饗庭長兵衛が近江より京に出て店を開いて以来、禁裏御用、社寺仏閣の依頼に応えながら京うちわの業界をリードして参りました。その高い技術力、品格をもって最近では工芸品としての分野を確立し、京うちわの文化を拡げ続けております。花開いた京うちわの文化、工芸技術をお楽しみくださいませ。

「涼夏」(約 横幅35×縦幅50cm)



月と太陽

日本画、洋画を問わず作家に好まれて描かれることが多い「月」と「太陽」。今展では、15名の作家によるそれぞれのモチーフの作品30点を展覧いたします。

〈出品作家〉

泉 東臣 大河原 典子 金丸 悠児 後藤 真由美 坂本 藍子
志水 堅二 須藤 和之 津田 文香 名古屋 剛志 伴戸 玲伊子
平岡 良 藤井 美加子 藤城 正晴 武藤 雅子 山内 大介
(敬称略・50音順)



武藤 雅子
「LA LUNA」(4F)

7月9日(水)～14日(月)

メッセンジャー 天野 裕夫 彫刻展

御神木の杉の原木を活かしブロンズで制作した生物の頭や手足をドッキングさせた独特の作風の天野先生。今展のタイトルにもなっている「メッセンジャー」という作品は、津島神社で倒れた120tの杉を何に作りあげるか迷える先生の前に現れた若い狸がモチーフとなっています。天野先生の手でメッセンジャーとして甦った大小約70点の彫刻たちに出会いにきてください。

「メッセンジャー」(110×77×高さ111cm)



神田 正之 ガラス展

キルンワークと呼ばれる技法で電気炉で焼成し、パッチワークのようにガラスをつなぎます。楽しい気持ちになるガラス制作を心かけられています。器、オブジェなど約100点を出品します。ぜひご覧ください。

「オレンジ色の風景」(38×33×高さ6.5cm)



7月16日(水)～21日(月・祝)

第47回 十果会

独立美術協会の有志が集い「意欲作を発表する勉強の場」として、1979(昭和54)年に十果会は発足しました。47回を迎えるにあたり、さらなる意欲作を発表することで、良い未来への道筋を描くことができると願う先生方。時代に追随することなく、飽くなき挑戦を続ける作品の数々を、ぜひご覧ください。

■7月19日(土)午後3時から

7月23日(水)～28日(月)

伝統技術を未来につなげる 三右衛門展

十四代今泉今右衛門先生、十五代酒井田柿右衛門先生、十四代中里太郎右衛門先生による三右衛門展を開催させていただきます。2025年は大阪にとってエポックな年となります。そのような中、今展覧会は「未来へとつむぐ『美』のこれから」―すべての人がいのち輝くために、人々の心の豊かさの源泉となる『美』にこだわり、寄り添い、社会における文化創造のかけはしとしての美術部の役割を發揮する展覧会となると考えます。ぜひご覧賜りますようお願い申し上げます。

■7月26日(土)午後3時から



十四代 今泉今右衛門
「色絵雪花墨色墨はじき四季花文虎香炉」
(20.0×14.0×高さ16.5cm)



十五代 酒井田柿右衛門
「濁手 蓼文花器」
(径15.0×高さ31.8cm)



十四代 中里太郎右衛門
「唐津白地黒揺落し虎文壺」
(径29.6×高さ27.5cm)

(敬称略・50音順)

TAKASHIMAYA Art Information 2025 7・8月

高島屋大阪店6階ギャラリーNEXTのご案内

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

6月25日(水) 7月7日(月) ※7月1日(火)は開催いたします。

岡安 真美 展 continuum



「玉響」(9.6×22.7×高さ12.5cm)

カラフルな釉薬の粒を施した「arale」シリーズは鉄瓶の霞のよう…より細かく、より立体的に進化し続けています。造形も、用途のあるものからオブジェ的なものへと幅が広がり、ポップな色合いもあいまって、より楽しい空間を演出するアート作品を創造されている岡安真美先生の待望の初個展です。

7月9日(水) 7月21日(月・祝) ※7月15日(火)は開催いたします。

古賀 勇人 展 -都市礼讃・花火-



都市礼讃「バリ・モンバルナス」(150×207.3cm)

風景写真を、視覚的效果を高めた画像加工を施すことで生じる大胆なまでの色彩とダイナミズムによる作品で注目される古賀先生。今展では、バリの街並み・花火・大阪の街並みの3つのテーマをもとに生み出された新たな景色を、新作を含め一堂に展覧いたします。

7月23日(水) 8月4日(月) ※7月29日(火)は開催いたします。

大阪芸術大学 × 大阪タカシマヤ KOGEI LABORATORY - 呼応する美 薈 -

大阪芸術大学と高島屋美術部がタッグを組み、素材への探求、ジャンルの融合とともに進化し続ける「KOGEI」を意識したグループ展を開催いたします。世界に向けて、日々の移ろいに美を見出す日本人の美意識を基に現代アートとして「過去を導い今を超え続ける」作品群に日本工芸の未来を感じていただけたら幸いです。

〈出品作家〉

山野 宏(ガラス工芸) 長谷川 政弘(金属工芸)
館 正明(テキスタイル・染織) 田中 雅文(陶芸)
ほか全12名 (敬称略)

山野 宏「New Fish Cather #11」
(44×33×高さ46cm/吹きガラス・握する魚雷・グレーピング・ペイント)



7月30日(水)～8月4日(月)

No Water, No Life

決まった形も色もない水…高温多湿の風土で生きる日本人にとって、水に対する感謝・畏敬は私たち日本人の気質となり、淡やかな感受性を育んできました。定まることを知らず、流れにまかせること、一期一会の表情のはかなさを受する国民性が長きにわたり、「水」を表現の対象としてきました。千変万化する表情に表現の世界ではチャレンジが続いてきました。そのような水の表現をご覧いただく第1部と、水が営みに直結している生き物の表現の2部制での展覧会です。水…何気なくも、なくてはならないモノに気づきがありますよう、ご高覧いただけましたら幸いです。

水環琴の演奏と出品作家有志によるギャラリートーク ■8月2日(土)午後3時から

〈出品予定作家〉

【1部】青木 成実 岩谷 晃太 太田 魁 狩俣 公介
北 浩二 阪本トクロウ 中島 健太 野地 美樹子
【2部】伊藤 正人 井上 裕起 岩田 壮平 大森 晩生
金丸 悠晃 下山 直紀 田中 武 藤原 裕之
松枝 悠希 松崎 和実 松田 重仁 吉水 快閑



(敬称略・50音順) 中島 健太「匿名の地平線-ver.monochrome-」(P80)

8月6日(水)～11日(月・祝)

かたち

昭和100年記念 言葉と象で振り返る昭和展

2025年は昭和100年にあたります。昭和が生み出した、または青春を過ごされた思い出の言葉を、現代美術界を代表する書家に、そして昭和時代を象徴する心象、事象の造形を巨匠から新鋭に至る多彩な立体造形作家によって作品化していただきました。展観を通じて昭和という時代の価値観や歴史の流れを感じていただけたら幸いです。

〈出品作家〉

【書】

池田 桂鳳 井茂 圭洞 石飛 博光
黒田 賢一 下谷 洋子 高木 厚人
日比野 博風

【立体造形】

相原 健作 浅野井 春奈 足立 篤史 池川 直
黒川 見彦 小島 久典 嵯峨 卓 杉浦 誠
鈴木 篤 能島 征二 蛭田 二郎 深井 隆
藤本 明洋 ますだまや 益田 芳樹 丸山 智巳
三田村 有純 宮田 亮平 吉野 毅 吉水 快閑
(敬称略・50音順)

8月13日(水)～18日(月)

志水 堅二 展 日本美術×ブリドリ

志水先生の画業は日本画と洋画の融合の模索から始まり、枯れた花や古びた道具をモチーフに時の流れを表現するようになりました。錆びた鳥の玩具から発案されたオリジナルキャラクター「ブリドリ」は、キャラクター文化のアイコンでもあります。ブリドリを描き始めて16年、古典と現代、過去と現在の融合した美術表現を探索し続ける志水先生。今展では尾形光琳、酒井抱一、葛飾北斎など江戸美術の先人たちの作品や意匠をとり入れた作品を展覧いたします。



「舞利鳥散歩図」(F10)

ふじ わら ひろ ゆき

藤原 裕之 展 ～水中への誘い～

魚に魅了されて40年、藤原先生は今なお水族館や海や川など、魚に出会う時間を大切にされています。水面下の魚たちに繰り広げられているドラマなどを想像しながら、水中の景色と心象を重ね合わせ、生命の鼓動を日本画で表現されています。この機会にぜひともご覧ください。



「赤い魚」(8F)

8月21日(木)～25日(月) ※8月20日(水)は全館休業日

コシノヒロコ 展 -美の探求そして継承へ-

ファッションデザイナーという枠を超え、生涯を通じてアート制作にも情熱を注がれてきたコシノヒロコ先生。その芸術性は国内外で高く評価されています。幼少期に親た歌舞伎や文楽などの日本伝統芸能は、色彩感覚に大きな影響を与え、先生の作品世界の礎となりました。「子ども時代に何に触れ、何を体験するかが、感性や美意識の形成にとっていかに大切であるか」と語るコシノヒロコ先生は、その想いを次世代へと伝えることを大切にされています。今展では、彩り豊かな作品群に加え、独自の技法による墨絵などを一堂に展覧いたします。ぜひこの機会にご覧ください。

ギャラリートーク ■8月23日(土)午後3時から

8月27日(水)～9月1日(月)

わか お まこと

-幽雅- 若尾 誠 作陶展

若尾先生は、岐阜県多治見市で陶土による青瓷の創作に懸命に挑まれています。その青瓷の中でも、「粉青瓷(ふんせいじ)」と呼ばれる、素地が褐色の陶土に釉薬を厚くかけた、不透明な薄い青色のものが先生の最も得意とするところです。緩やかにうねりを帯びたボディに、美しく青い釉薬がかかり、貫入の景色と相まって、得もいわれぬ魅力を放っています。ぜひご高覧ください。

粉青瓷茶碗 銘「静雅」
(13.5×13.2×高さ11.6cm)

あき やま たかし

秋山 隆 木彫展

1975年広島県生まれ、2000年広島市立大学芸術学研究科彫刻専攻修了。秋山先生の彫られる動物たちはディテールに拘りながらも、躍動感に満ちています。近年「自然と人工」をテーマに制作されており、有機的な曲線と人工的な直線のコントラストが今展の見どころです。

「月」
(22×52×高さ16cm)

8月6日(水) 18日(月)

※8月12日(火)は開催いたします。

かわ きた

川北 ゆう 展 Detail of the Day



川北先生は、絵具やインクや水を用い、感覚や自然現象のなりゆきにまかせて揺れ動いた線の痕跡を画面に定着させた作品を展開されています。時の流れの機微が可視化されるかのように細かな動きのある画面は、強く優しく、ユーモラスで、鑑賞者の心に深く沈降します。画面に現れる揺らぐ線と色の重なりは、いつの間にか忘れてしまう感情や記憶が蘇り、時間を重ねて生きることを慈しむ気持ちをも思い出させてくれます。この機会にご高覧ください。

「2025.05.06」(53.0×33.3cm)

8月21日(木) 9月1日(月)

※8月20日(水)は全館休業日 ※8月26日(火)は開催いたします。

とみ た な つみ

富田 菜摘 展 ReBirth



「角造」(65×165×高さ108cm)

今展では、サイやキリンなど、見上げるほど迫力のある大型の動物たちから、手のりサイズの亀など、廃材から生み出される様々な生きものたちの新作を一堂に発表いたします。富田先生が手掛け“ReBirth”した生きものたちのあたたかな生命感が空間いっぱい広がる、賑やかでカラフルな富田ワールドを、どうぞこの機会にご高覧ください。

高島屋大阪店美術画廊・展覧会のご案内はホームページ、Instagramからもご覧いただけます。



ホームページ



Instagram

Instagramでは旬なアートの情報や展覧会の最新情報を随時更新中！
アート好きの方はフォローお願いいたします！
※PC・スマートフォンからご覧いただけます。